

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	17-011	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Independent and joint effects of moderate alcohol consumption and smoking on the risks of non-alcoholic fatty liver disease in elderly Chinese men. 中国人高齢者における中等度飲酒と喫煙の非アルコール性脂肪性肝疾患リスクに対する影響		
<b>執筆者</b>		
Liu P, Xu Y, Tang Y, Du M, Yu X, Sun J, Xiao L, He M, Wei S, Yuan J, Wang Y, Liang Y, Wu T, Miao X, Yao P.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS One. 2017 Jul 20;12(7):e0181497. doi: 10.1371/journal.pone.0181497.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
中等度飲酒、喫煙、非アルコール性脂肪性肝疾患		28727853
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 喫煙や中等度飲酒が非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と関連するかどうか、十分に検討されていない。本研究では、中国人男性において、喫煙と中等度飲酒の単独あるいは組み合わせが NAFLD に及ぼす影響について検討した。		
<b>方法：</b> 中国人高齢男性を対象とした DFTJ コホート研究の参加者のうち、過度飲酒者（ $\geq 210\text{g/週}$ ）を除外した 9432 名を本研究の対象とし、横断的解析を行った。脂肪肝は超音波検査を用い評価した。多変量ロジスティック回帰分析を用い、飲酒量と喫煙の NAFLD 有病オッズ比（OR）および 95%信頼区間（CI）を算出した。		
<b>結果：</b> 現在喫煙者（ $\text{pack-year} \geq 40$ ）あるいは飲酒者（ $80\text{-}210\text{g/week}$ または飲酒歴 $\geq 35$ 年）の NAFLD 有病率は非喫煙者あるいは非飲酒者よりも有意に高かった。現在喫煙かつ飲酒（ $80\text{-}210\text{g/week}$ ）者の NAFLD の有病 OR は 1.85 (95%CI: 1.28-2.68, $p < 0.01$ ) と有意に高値を示した。この関連は飲酒の定義を飲酒歴 $\geq 35$ 年とした場合も同様であった（OR: 1.72, 95%CI: 1.26-2.34, $p < 0.01$ ）。さらに、NAFLD に対する現在喫煙と中等度飲酒の交互作用を認めた。		
<b>結論：</b> 中国人男性において喫煙かつ中等度飲酒者は NAFLD 有病を関連した。また、両者は各々が独立して NAFLD 有病と関連した。これらの知見より、NAFLD 予防のためには喫煙および飲酒を避ける必要があると考えられる。		